

# 中四国・瀬戸内クルージングサミット

日時：平成22年8月20日（金）12：30～15：40

場所：香川県三豊市仁尾マリーナ

概要：第3セクターのマリーナを有する広島県福山市、岡山県瀬戸内市、愛媛県新居浜市、香川県高松市、そして三豊市の、5市の基礎自治体の市長によるサミットの第1回が、香川県三豊市仁尾マリーナで開かれた。



まずは、香川観光協会会長の梅原利之氏の基調講演「21世紀は基礎自治体の時代。瀬戸内海から地方の元気を発信する。」。

続いてサミット。サミットの最後には、「本サミットにより、行政パイプを構築し、民間の様々なビジネスチャンスの拡大を図る。そして、民間事業者の活動を支援することで、瀬戸内海沿岸地域のさらなる活性化、発展に結びつけていくことを目標に、次のことを確認し、ここに宣言します。」と、共同宣言が行われました。

内容：

12：34～12：35 黙祷

- ・多度津沖で墜落した海上保安庁第6管区の方々の方々の冥福を祈り黙祷。

12：36～12：50 開会行事

<12：36～12：28 出席者紹介>

<12：38～12：38 開会宣言 政策部部長 しらかわ>

<12：38～12：41 開催地挨拶 横山三豊市長>

- ・オープン参加で、ビックリするような方々に参加いただいている。みなさまこそゲストです。
- ・世界的にも著名な梅原さんにコーディネートをいただける。
- ・瀬戸内海の利用策が見つからない、それを見つけようと模索する人たちが結集。
- ・5つの町が県境を越え、基礎自治体による新しい取り組み。
- ・瀬戸内海の新時代を築いていければと思っている。
- ・最後までいっしょになって楽しい時間を過ごせますよう、冒頭の挨拶に代える。



< 12 : 41 ~ 12 : 45 来賓挨拶 国土交通省四国地方整備局港湾空港部長 小平田 >

- ・瀬戸内に面する市町村、県の方々による瀬戸内海のネットワークとして取り組んできたところ。これら地域の活動支援を、国交省として行っている。
- ・今回、単独の市ではなく、4つの県にまたがる5つの市が自主的に取り組まれている。
- ・基礎自治体が自主的に取り組むことに関わりを持つことは、初めてのこと。
- ・梅原相談役の瀬戸内への熱い思いを聞けるのではと、楽しみにしている。
- ・いろは丸についても、今日は楽しみにしているところ。
- ・本日のサミットが盛大に、また、今後の基礎自治体のサミット活動が活発になることを祈念し挨拶に代える



< 12 : 45 ~ 12 : 49 三豊市議会議長 こんどうひさし >

- ・瀬戸内海に面する4市の市長、梅原会長、歓迎いたします。
- ・平成の大合併で海から山までの三豊市となり、情報発信をしていく。サミットは、大きな役割を担う。
- ・ここ仁尾は、海上交通の要所として大いに反映していた。平成5年には国体のヨット会場として使われた。
- ・しかし、レジャーの多様化、不況など厳しい時代。
- ・本サミットが、互いの情報の共有と、フィードバックの機会となることに大いに期待する。

12 : 50 ~ 13 : 50 記念講演会 香川県観光協会会長 梅原利之

< 12 : 50 ~ 12 : 52 講師紹介 >

- ・京都出身
- ・日本国有鉄道に入局。取締役として神奈川支店長、事業本部長、JR四国の代表取締役専務、社長、会長、相談役など
- ・瀬戸内海の歴史と観光について造詣が深く、今日の講演を楽しみにしている。

< 12 : 52 ~ 13 : 50 記念講演会 >

演題：「21世紀は基礎自治体の時代。瀬戸内海から地方の元気を発信する。」

講師：香川県観光協会会長 梅原利之

〇はじめに

- ・横山市長から、開会挨拶にありましたような熱い思いをお持ちになり、本日の講演となった。
- ・せっかくの瀬戸内海が世界には知られていない、特にアジアから認知されていない。
- ・私も免許を取り、瀬戸内の海をモーターボートで走っている。



## ○日本の行政組織形態の変遷

- ・明治の大合併（1888～1889末） 71, 374から15, 859 約5分の一
- ・昭和の大合併（1953～1961） 約3分の一
- ・平成の大合併（1999～2010末） 約2分の一
- ・広島、岡山、愛媛、香川の4県は、市町村合併が全国の中でも進んでいる地域。

## ○瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

- ・平成3年5月 107の市町村と11の県で構成。国交省もサポート。 ← あまりにグループがデカすぎる。
- ・5市の連携はすばらしい。 ← 全国に広まっていくだろう。

## ○瀬戸内海は世界の宝石

- ・新渡戸稲造 「余が瀬戸内海を
- ・シーボルト（ドイツの医者）「船が向きをかえるたびに魅せられたように美しい島々の眺めがあらわれ、島や岩島の間に見えかくれする本州と四国の海岸の景色は驚くばかり・・・」
- ・リヒトフォーエン（ドイツの地理学者 シルクロードの命名者） かくも長い開発
- ・ラッセル・クーツ（ニュージーランドのヨットマン） かつて経験したことのない世界中のどこにもない・・・
- ・しかし、知名度が低い！

## ○瀬戸内海とは

- ・狭い戸（門）で囲まれた内海なので、「瀬戸内海」と命名。
- ・瀬戸内海国立公園 国立公園の第1号 ← 福山市、瀬戸内市、三豊市、高松市の4市で囲まれる備讃瀬戸が、昭和11年に、雲仙、霧島と共に3つが第1号指定。
  - 昭和25年に拡張 陸地部分
  - 昭和31年に拡張 海域を中心に拡張
- ・本四架橋の完成
- ・瀬戸内海の風景とは
  - 自然環境 静かな海に多島美
  - 風土・生活景観 島々の段々畑や様々な風土が育まれている
- ・瀬戸内海の風景は、ほっとする故郷にも似た親しみ。

## ○瀬戸内海の歴史

- ・源平合戦の舞台
- ・海の路 → しかし、海の素晴らしさ、役割を忘れてしまっている。
- ・北前船の歴史 鞆
- ・海賊・水軍 村上水軍：戦う水軍 塩飽水軍：繰船術に長ける

## ○瀬戸内海の現状（問題点）

- ・瀬戸内海における工業開発拠点地域 全国21都市指定のうち1／3が瀬戸内に位置する。
- ・重化学工業の立地 埋め立てや海砂の採取 → 延長200kmの白砂青松（砂浜）が無くなった。
- ・瀬戸内は災害が無く、埋め立てがしやすく、労働力の確保も用意 → 公害の発生 → 瀬戸内法 → 埋め立て、海砂採取の制限

## ○瀬戸内海、花いっぱい運動

- ・世界的にも珍しい生態系の残っている地域。しかし、無人島になったとたんに、生態系もおかしくなっている。
- ・女木島 ソメイヨシノの植樹 桜の島だったのが古木となり、守ろうと、島民の人たちと一緒に植樹。
- ・男木島 水仙の植え付け 島民（高校生が中心）をあげての植え付け、1,100万本。
- ・島全体が金盞花や除虫菊などの花畑だらけだったのが無くなってきたので、オーナー性で守る。

## ○船の祭典2010

- ・チラシを参照して下さい。
- ・海洋国家であるはずの日本、船で支えられている工業国日本、船の恵み、船のおかげで成り立っている暮らしを再認識するよう、瀬戸内から全国発信。
- ・次世代に伝えたい **海や船の大切さ 楽しさ**
- ・50のイベントを全部手作りで実施。
- ・「**船は大切**」「**船は安心・安全**」「**船は楽しい**」の3つの柱
- ・「日本丸」「しんかい6500」「よこすか」「みうら」などの寄港
- ・「海上パレード・鎮魂行事」、3つの島で「公開討論会」、宇高連絡船の再現 など
- ・船文化発祥の地で、祭典をやりたかった。

## ○瀬戸内国際芸術祭2010

- ・7月19日 「海の日」からスタート。
- ・こういうことも出来ます！
  - 直島：南瓜、家プロジェクト、地中美術館
  - 犬島：家プロジェクト
  - 豊島：空の粒子
  - 小豆島：
    - 女木島：鬼合戦 桃の勝利、不在の存在
    - 男木島：男木島の魂、思いで玉が集まる家、オンバ・ファクトリー
  - 大島：つながりの家
  - 高松：トーテムポール
- ・瀬戸内の活性化のために3年に一度やっていく。

## ○アドリア海（ヴェネツィア）との比較

- ・イタリアの付け根、北のはし。
- ・もともとは追われて海に逃げ、海に杭を打って都市を造った。
- ・なぜ、ヴェネツィアか

小さな産業が多く、観光に最も力を入れている。

イベントをやりながら、それを継続し、産業として残っている。映画祭、音楽祭などなど世界的な文化（芸術）都市である。

人口31万人に、観光客1,200万人。

備讃瀬戸ほどのひろがり

海上のアクセス 水上バス、水上タクシー、ゴンドラ

## ○エーゲ海（アテネ、イスタンブール）との比較

- ・エーゲ海と瀬戸内海の比較

気候はそっくり、多島、・・・

- ・1日クルーズ 頻繁に運行されている。
- ・石灰質のためオリーブしか咲かない。瀬戸内は多種多様な花が咲く。
- ・クルーズ船 島を活かすために、クルーズを一生懸命やっている。島でもイベントを一生懸命やっている。
- ・瀬戸内のほうが自然環境は、はるかに勝っていると思うがイベントや連携が出来ていない。 → **今日のサミットは、連携のスタート。**

## 13:50～14:02 休憩

### ○フロアの参加者の話し声から

- ・官主導：金が動く。でも今年は予算があっても、来年の予算はわからん。継続性が担保できん。
- ・民主導：金がない、手作り、人脈を頼るしかない。こんなことしかできんけど、続けられる。

## 14:02～15:27 サミット

### ○コーディネーター 香川県観光協会会長 梅原利之

- パネラー
- |       |      |
|-------|------|
| 福山市長  | 羽田皓  |
| 瀬戸内市長 | 武久顕也 |
| 新居浜市長 | 佐々木龍 |
| 高松市長  | 大西秀人 |
| 三豊市長  | 横山忠始 |

- 瀬戸内海の活性化を広い視点で議論することが目的。



## ○1 巡目 それぞれの市の取り組み、町のあり方、作り方について

梅原会長：

- ・県から5人の市長さん。思いの熱い市長さん方。トップのリーダーシップが大事であり、市民の連携、民間をどう使うかが大切。第3セクターのマリーナのある市が集まった。
- ・それぞれの取り組んでいる、瀬戸内海の町のあり方、作り方をお話いただきたい。

羽田福山市長：

- ・今日は、船をチャーターし福山港から約40分間で来た。仁尾は近い町だなと感じた。
- ・福山市は、福山城、鞆の浦、みろくの里など観光資源に恵まれ、潮待ちの町として栄えた鞆の浦は港町の長い歴史を継承している。保存事業を進めているところ。
- ・花火大会、ひな祭りなど、年間180万人の観光客が訪れる。「崖の上のポニョ」、「竜馬伝」のロケ地など、県外からも多くの観光客をお招きしている。
- ・観光客の7割は自家用車で来訪、船舶での来訪は1%に満たない。駐車場不足が深刻化。
- ・旅行が団体中心から、個人中心へと代わり、対応していくことが必要。
- ・鞆クルージングは直接沈没船（いろは丸）までクルージングできる魅力あるもの。観光客の定着につながることを願っている。
- ・しかし、駐車場問題、棧橋の整備がなっておらず、市内観光の停泊地としてはあまり利用されていない。そうした観光面への整備が必須。

武久瀬戸内市長：

- ・「瀬戸内市」とは、瀬戸内のどこにあってもおかしくない市の名前。3町が合併して出来た4万人弱の町。3つの個性ある町が一つになった。

長船：日本の国宝の刀の半分が長船のもの。公立の刀を専門にした博物館がある。

牛窓：「日本のエーゲ海」ということで、特に今回のクルージングサミットに関係する町。

- ・牛窓は海外にも結ばれた町として、独特の文化を育んできた。一文字防波堤が島の風景の一部をなしている。港には、「朝鮮通信使」が宿舎に使った「本蓮寺客殿」があったり、伝えていこうと「海遊文化館」などがある。
- ・牛窓オリーブ園 約2千本のオリーブ。
- ・ギリシャ、レスボス島のミティリニ市と姉妹都市。
- ・ヨット専門のハーバー。国体、インカレの会場に。
- ・夜の牛窓の風景はとても素敵なものがあると思う。
- ・過疎化が進む牛窓の地域の活性化をどう進めていくかが、私に与えられた課題。



佐々木新居浜市長：

- ・海のサミットで山の話をして・・・ 「東洋のマチュピチュ」 マイントピア別子のうちわ。今日お配りしたうちわがとても役立っていてありがたい。

- ・別紙銅山の銅を運ぶために港が必要と、企業が港を作った歴史が新居浜にはある。民間と行政で構成される港務局委員会が、新居浜港の運営を協議している。産業との関係が港と密接。
- ・そんななか、海洋レクリエーションにとマリーナの整備を進め、平成18年に完成。
- ・地理的に離れていることから、「海の祭典」や「芸術祭」にも関係を持っていない。
- ・広がりのあるような取り組みにと、本日参加させていただいた。

大西高松市長：

- ・横山三豊市長から、「マリーナを持っている町で、サミットをやろう」と声をかけていただいた。ちょうど宇高航路が無くなると、もめていた時期で、「是非に」と参加。
- ・今年、高松市は市政120周年。高松という町自体は、「のはら」との名前だった。「古高松」の名前をとって、お城の名前として「高松」と名付けて4百年強。
- ・「丸亀町」 商人を丸亀から呼んで住ませたことが始まり。
- ・国際音楽祭、船の祭典、瀬戸内国際芸術祭などを開催。
- ・高松は海から始まった町。波の上に城が見えるという有名な城。参勤交代も船で。
- ・芸術祭、現代アートの祭典ではありませんが、現代アートが「入り口」、「切り口」に。福武、県、民間の方々 これからの島のあり方を考えていきたい。そこに住む、おじいちゃん、おばあちゃん笑顔を取り戻そう。定住人口の3倍ほどの人が毎日訪れている。何らかの変化、良い方向への変化が起きると期待している。

横山三豊市長：

- ・高松市長に相談したら良い感触。これはいけるかなあと。
- ・これはサミットでありました。この後ろにくっついてくる市役所の人たち、民間の方々が連動していただけることを期待している。
- ・仁尾町は風待ちの港として栄えた。海岸から少し内陸に入ると江戸の古い町並みが、鞆にも負けない町並みがあり、ボランティアガイドによる仁尾の町並みにも力を入れていきたい。
- ・島の向こうに夕日が落ちる。これも、資源として売り出していかなばと思っている。未開発の部分をもっと売り出していきたい。
- ・栗島（あわしま） 歴史的に豊かなもの、史跡が残っている。これも表に出していきたい。伊藤弘文が、世界に乗り出していくときに船乗りを大事にし、百円（今の金で3百万円）を寄付している。
- ・海側に史跡があり、うったえていきたい。「いろは丸」のことを、三豊市もうったえていきたい。衝突し沈没したのは三豊市の沖である。鞆だけでなく、三豊市も売っていく。



## ○2 巡目 行政の連携、民間をその気にさせるには

梅原会長：

- ・民間主導で、民間が突っ走り、行政が支援する、このパターンが良い。

- ・ 2巡目、一つの市だけでのことではなく、具体的に連携でどういうことが出来るか、どの町とどういうことが連携できるか、民間をどうその気にさせるか、そのためには行政としてなにが出来るか、議論を深めていただきたい。

横山三豊市長：

- ・ サミットをやると決定してから、地元の2社の旅行会社が立ち上がり、企画してくれた。「船で行く竜馬の旅」を頼と連携し、企画してくれた。高松と連携できたことで、「船で行く国際芸術祭」のクルーズを企画していただいた。
- ・ このように。我々では思いつかないことが、出てきた。後援という名前だけで金を出していない。会議でチラシを配ることが出来る。
- ・ 一つの事業が大きく膨らんでいく。公共の強みは「信用」だと思う。公共の「信用」と、民間の「知恵」から動きが、成果が出てくる。
- ・ 公共がやると、「補助金がいくら出るんか」、「無料やろう」と、市民の方々も思ってしまう。利用者負担という考えには民間の取り組みが。

梅原会長：

- ・ 具体的な話が出てきました。官民がそれぞれの役割を分担したから出来たんだろう。トラベルサービスの豊田社長さんから。

豊田社長：

- ・ 民間の旅行業者は厳しい状況。「着地型事業」、地域が元気になる旅行企画をやろうと、全国で展開中。
- ・ 行政は、「口は出すが、金を出してくれない」ということ。地元2社でやらせてください。利益は半分になるが、損も半分。
- ・ その結果、どんどん自分で考え、宣伝もせにゃあいかん。鞆に行く船の2便が空で帰ってくる、これを何とか使おうと、福山市の観光課に相談。福山市が後援をしてやろうとなった。しかし、チラシを送るだけで、それ以上の取り組みをしていなかった。
- ・ 515名の人が向こうに行く。「デッキ席でよければ」と、さらに50名確保。しかし、福山からの乗客が少ない。私たちの努力不足。
- ・ 芸術祭に、三豊から協力が出来ないだろうかと、「80cmの浮き桟橋さえあれば、高速艇で行ける」ということを知り、企画を計画した。
- ・ しかし、これは現地は個人型旅行です。行き来は団体でも、島内は個人型。118名の申込（174名定員の船）。10月後半の3回の土曜日にやろうと計画。
- ・ 竜馬も11月の最初の3回の土曜に竜馬の企画をやろうと、福山市にもお願いを。

梅原会長：

- ・ 観光は着地型、地元の思いが大事。熱い思いを投げかけられた福山市さん



羽田福山市長：

- ・「空便が2便ということ。これを活用し仁尾に行く」という、こういう企画が生まれたのも、竜馬、いろは丸、関係するところで企画が出来ないか、ツーリズムを創造出来ないか、ということになったと受け止めている。
- ・互いに調節したのか、北前船、・・・それぞれの魅力があり、これらを行政サイドとして旅行会社に伝えていくことが役目。後援、宣伝、支援していくことが、多くの観光客につながる。



映画作りを6～7月行った。行政として、経済的、人的な支援を行い、これが福山市のブランドづくりにつながる。地域を見つめ直す、研究することで、瀬戸内海という面を各市が出し合った取り組みに支援していく。

梅原会長：

- ・足下をしっかりと。しかし、自分のところはわからんものです。よそ者を入れたりすることで、宝物を探すことも。民間との連携について。

武久瀬戸内市長：

- ・海をテーマとしたネットワークを大切に構えながらの地域づくりにおいて大切な二つの軸。
- ・ハード事業 プレジャーボートの係留施設が不足。ヨットはあるが・・・しかし整備には長時間を要する。
- ・ソフト事業は今回のサミットを通じて、すぐにでも出来るのかなあ。行政の「信頼性」から・・・
- ・もう一つの軸として、国内、海外の観光客をどう考えていくのか。朝鮮通信使の歴史を探る、そんなツアーを探る、国内だけでなく朝鮮の方々へも発信していく。
- ・団体旅行にあきた方々に、10人程度の家族向けのクルージングを提供するパッケージも。
- ・国内の方には「日本のエーゲ海」ではなく、「日本の牛窓」が必要。
- ・今クルージングするにも、「どこに船を泊めるのか？ 水や電気は・・・？」と、結局出港した港に帰ってしまう。是非一泊2日以上で、そんなことが企画できることが。

梅原会長：

- ・係留施設の問題がある。
- ・漁民のみなさまとの住み分けもしっかり話していかなければならない。これは行政の役割。

大西高松市長：

- ・女木島、男木島の連絡船の最終便は午後5時だという。これでは芸術祭なんて出来ない。
- ・2日間フェリー乗り放題で3500円。日本で初だそうです、運輸局がこれを認めてくれた。
- ・芸術祭のいろんなところ（島）を廻るのに、「自分のクルーザーで



着ける所があるのか」、「停泊には、いくらかかるのか」、など問い合わせが多くあった。今は、高松港を中心にホームページで検索できるようにしたが、こんなものがすべてのマリナーで、

- ・英文のホームページの高松市の紹介には、「直島にアクセスするのに一番便利なまちが高松です。」と、これが外国にアピールする最良の方法です。
- ・公開プレゼン方式で、観光プロモーション事業 れおん 映画作りなど 民間の企画力、推進力を表に出しながら、行政が支援する。そんな取り組みをこれからも。

梅原会長：やれば出来ることを証明した。

佐々木新居浜市長：

- ・観光甲子園 準グランプリ 今年地元の旅行会社が実施。
- ・自然美ではないが、海から観る工場の夜景群がきれい。商品化されてきている。
- ・島でしかとれない芋 シロイモ 地元商業高校の学生がレシピを考えて、販売している。市営の船で島に渡って、芋を掘って、お菓子を作って。
- ・高校生による提案コンクールとか、若い人の取り組みで、地域に愛着がわくなど、取り組んでいきたい。
- ・JTBとマイントピア別子で、「東洋のマチュビチュ」と命名。行政では、「どこかからクレームが付いたら」と出来ないところ、民間の発想で実現した。
- ・マリナーでのコンサート 船で訪れてもらうとか。島とかの自然美とは違う、他にはないものが新居浜にはあり、活かしていきたいと思っている。



梅原会長：

- ・つさかしま あそこの銅の精錬所 犬島、牛島との連携とか出来たら・・・  
ホストとして、一言を。

横山三豊市長：

- ・本日のサミットでは、いただくものが多いと感じた。
- ・三豊市に個人の船がいくらあるのか、 37隻、個人のマリナー3社に379隻 合計594隻 不法係留が50~60隻ほどある。
- ・これが、ビジターバースをどう整備していくのか、ビジターバースの情報がちゃんと提供できているのか、マリナーの社長さん方と話していかないといけない。
- ・次のせさくがどう展開されていくか、市の部局、社長さん方に、どう役所を利用してやろうかと、メリットを活かしていただきたい。決断力の早いトップ。

梅原会長：

- ・全員で取り組んでいくは、もう古い。やる気のある人でやる、5人でやる。がんばる所はがん

ばる。そうすれば変わっていく。

- ・さきほどプレジャーボートの話になったが、「海遊人」との企画を組んだが、あまりに時期が早すぎて成功とはならなかった。
  - ・いっぱいあるプレジャーボートを使って、行政の支援もあり、出来るはずだ。
  - ・いろんな人が瀬戸内のクルージングをしたいと思っても、日本人は大型船でクルージングなんて発想が、なかなか無い。
  - ・小さなことでも取り組んでいき、積み重ねていくことで必ず将来につながっていく。
  - ・全体の瀬戸内海の活性化、
  - ・一つは、基礎自治体が自らが考えて自らが動く。まずはトップが考え、トップがやる気にならなければ。それが今日の5人の方々。
- 
- ・観光政策 物造り大国となったが、観光については超後進国。観光資源は地方にある。観光は老若男女の雇用の場を生む、地方にぴったりの産業。
  - ・最後、行政の役割は大きい、民間が動かないと失敗する。民間の知恵をいかに使い、いかに儲けてもらい、地域の活性化につなぐか。



司会：自ら考え、自ら行動することで、瀬戸内の活性化を。民間の知恵を活かし・・・

### 15:28～15:32 サミット共同宣言



### 15:32～15:38 記者会見

四国新聞：マリーナの整備、マリーナの情報発信など、今後の事業化も含めてどう進めていくのか？ どなたか代表して回答を。

大西高松市長：とりあえず5市の市長が集まり、これから相談していく。出発点として、本サミ

ットで各市長イメージが出来ているだろうから、これからどうやっていくかとなっていくのでは。

司会：来年の開催地は、新居浜市。新居浜市長から挨拶を

佐々木新居浜市長挨拶：

- ・ 来年新居浜市でとの話。話があればすべて受け入れることとしているので、お受けする。
- ・ 来年は2回目ということで、今日のやりとりが、どう実施につながったのかの報告につなげなければいけない。お待ちしております。

司会：サミットは年に1度の開催。共に考え、共に行動してまいります。ありがとうございました。

－ 以上 －

次ページに「サミット共同宣言文」を示す。



## 中四国・瀬戸内クルージングサミット共同宣言

～ 海の史跡、海の足を活かした観光で瀬戸内海を元気に！～

瀬戸内海地域は、人やモノ、文化や情報が行き交う場所として、古代より現在に至るまで、歴史・文化・交易の「海の道」として、独自の社会・経済文化圏を形成し、日本の発展の一翼を担ってきました。

一方、最近の我が国の状況を振り返ると、「地方の時代」と言われているにも関わらず、実情は、人、モノ、情報すべて東京一極集中で、地方は人口減少、少子高齢化、財政面の脆弱化等の不安要素を抱え、「元気」を失っています。

こういう時代だからこそ、地域が主体となり、基礎自治体同士が連携を深めるとともに、地域の多様なポテンシャルを活かした民間事業者による新しいビジネスチャンスの発掘が求められています。

今回の「中四国・瀬戸内クルージングサミット」は、広島県福山市、岡山県瀬戸内市、愛媛県新居浜市、香川県高松市、三豊市の5市の基礎自治体によるサミットです。このサミットでそれぞれの自治体間で瀬戸内海の上に行政パイプを構築し、民間の様々なビジネスチャンスの拡大を図ります。そして、民間事業者の活動を支援することで、瀬戸内海の経済や交流の活性化につなげていきます。

5市相互の連携のもと海や島々の史跡や文化を生かしながら、瀬戸内海沿岸地域のさらなる活性化、発展に結び付けていくことを目標に、次のことを確認し、ここに宣言します。

- ① 自ら考え、自ら行動する基礎自治体と瀬戸内海に可能性を求める民間事業者が参画する「中四国・瀬戸内クルージングサミット」によって、瀬戸内新時代を目指します。
- ② このサミットに参加する各市が連携し、点在する瀬戸内海の海の史跡を活用し、それを海から楽しむクルーズ等、民間のビジネスチャンスの拡大をサポートしていきます。行政や観光協会がそれぞれの文化・イベント・観光情報を積極的に提供し合い、民間事業者をソフト面で支援していきます。そして、この取組みを通じて、瀬戸内海地域に「人、モノ、情報」の動きを作り出し、地域経済の活性化と、人や文化の交流拡大に努めます。

平成 22 年 8 月 20 日

福山市長	羽田 陪
瀬戸内市長	武久 顕也
新居浜市長	佐々木 龍
高松市長	大西 秀人
三豊市長	横山 忠始